

フォークダンスによる教育

池 間 博 之

【はじめに】

戦後フォークダンスは一貫して小中高校で指導されている。その間フォークダンスを取り巻く国内外の情勢は大きく変わっているに拘らず、指導要領、指導教材はあまり変っていない。

フォークダンスが人類共通の文化として生涯教育、国際理解教育に寄与するにふさわしく機能するためには、その全体構造を明確にする必要がある。また、歴史的な発展過程をたどることによって、21世紀への洞察も可能となる。

【フォークダンス財の蓄積】

教育、教養、社交、娯楽を目的としたダンスの踊り方が記録されたのは15世紀のイタリアといわれている。〈Nobilita Di Dameカローソ著〉その後フランスのアルポーがOrchesographyを発行1588年、当時の宮廷ダンスを平易に記録している。1651年イギリスのプレイフォードが発行したEnglish Dancing Masterはその後80年間18版を重ね900曲を記録している。18世紀のヨーロッパはルイ14世主導で数多い宮廷ダンスが踊られた。フランス革命後、中流市民階級の抬頭があり19世紀ワルツの大流行を迎える。ひきつづきギャロップ、ポルカ、マズルカ、ショティシュ、エコセイス、カドリール、ポロネーズ、バルソビエヌ等民族色豊かなダンスが19世紀中頃まで次つぎと生れた。19世紀末からダンスの中心はヨーロッパからアメリカに移る。ツーステップ、バーンダンス、ケークウォーク、ポストワルツ、マキシシ、タンゴ、ワンステップ等を1910年代にキャッスル夫妻が近代社交ダンスの方向を定めモダンダンスと名づけた。これに対してオールドタイムダンスの名称で19世紀ダンスを踊る運動、さらに最も新しいダンスとして、流行ダンスの性格をもつノベリティダンスが1930年代に誕生する。

現在、フォークダンスの名で欧米や日本で踊られている種目はヨーロッパの中世・ルネッサンスにその痕跡を残し、以降、農民、都市住民、王候貴族の間で流行したもの少数を含んでいるが、大部分はせいぜい過去150年間で踊られた比較的新しいダンスである。

【ヨーロッパとアメリカのフォークダンス教育】

イギリスのJ.ロックは1693年「こどもの教育は学問と身体活動が必要でダンスは美しい動き、男らしさ、自信を与える」と述べている。18世紀ドイツのゲーツムースも体操運動と共にダンスを強

くすすめている。18～19世紀スコットランドのダンス教師は旅まわりをして社交的ダンスと伝統的ダンスの技術と礼儀作法を教えた。こどものクラスではダンスと共に体操も教えていた記録がある。19世紀イングランドでは女権拡張運動の高まりとあいまって看護婦と女教師が話題となった。女教師は当時流行した体操科目で女生徒の指導は女教師の手で、と主張して成功した。この時、体操と共にダンスは女子の特性にふさわしい活動として承認された。初めは社交ダンスとフォークダンスが中心であったが、今世紀、特に第2次大戦後はダンス教育の中心がモダンダンス、創作ダンスに移りフォークダンスは副教材になった。しかし副教材といっても初等教育レベルは、もっともポピュラーな型のダンスと認めている。この理由は英国民族舞踊協会80年の歴史の中で政府、地方自治体、教育委員会の協力態勢を整え教材の提供、教師のインサービストレーニングも行われている。英国舞踊教育調査報告書のまとめで「学校教育が終了した後もすべての人びとがダンスを継続する機会を広めるべきである」と述べている。

アメリカ合衆国のフォークダンスは20世紀初頭のこどもの遊び場づくり運動、レクリエーション運動から活性化した。もともと移民の国アメリカは複数民族がそれぞれのコミュニティで伝統文化が維持されていた。こども達の新しい統一されたアメリカ文化の創設に心を砕いていたニューヨークの進歩的教育者がフォークダンスを採用した。その頃全米各地で流行したワールドフェアに協力して大人からこどもまで民族衣裳で民族楽器にあわせて舞台上でフォークダンスが踊られた。先頭にたって活躍したのが小中学校教師とレクリエーション指導者であった。体育科目だったので「ジムナステックダンス」の名で男性向け、ステージ用に振付け、高度な技術のフォークダンスも盛んに行われた。大学の舞踊教育は、モダンダンス、パレエ、フォークダンスが中心で研究も盛んで大学のフォークダンス公演グループも各地に見られる。全米ダンス協会(NDA)はダンスを4分野にわけAesthetics, Education, Theater, Formとしフォークダンス、社交ダンスはFormに属している。1964年にロイドショー財団が発足した。この財団はアメリカの伝統的音楽、ダンス、うた、フォークアート等を蒐集、保存、研究調査、普及を目的に活動している。

【日本のフォークダンス教育】

明治時代、鹿鳴館で踊られた社交ダンス、カドリール、コチロン、ランサーズ等が女性不足のため協力した東京女子高等師範学校で生き続け、女学校の体育ダンスとして今日まで命脈を保っていることは特筆に値する。大正、昭和と行進遊戯の名称でフォークダンスは女生徒のみに指導された。

昭和11年の要目にも片仮名でブレッキング、ブックナッグ、ヴァルソヴィエヌ、スコッチキャブと難しいダンスもみえる。戦中戦後の女子体育ダンスの功労者戸倉ハルがはたしたフォークダンスへの功績はきわめて大きい。

戦後昭和20～30年代初めスクエアダンスが流行し学校でも広く踊られた記録があるが連合軍の占領政策で行われた事実はない。社会体育、レクリエーション種目として学校体育、ダンスに採用されたがその理論体系と実技方法論の不備から一貫して補助的な地位を占めて今日にいたっている。この間に日本独特な現象として“3種の神器”と呼ばれる マイム、オクラホマミクスー、コロブチカが全国で標準化して定着した。地域社会でのフォークダンス運動の進展もあって学校や公共施設での行事で男女ともどもフォークダンスを踊る姿がみられるようになり、特に中年の家庭婦人愛好者が増えている。日本民謡が教育の場に登場したことは画期的なことである。理念があいまいで具体的な取扱い方も難問が多く実際に行われている例は少ない。その中において民族舞踊教育研究会の活動は貴重な実験といえよう。国際化時代を反映して日本伝統の民謡の教育に対してゆるやかでしかも説得力のある方針が必要と考える。

【国際的なフォークダンス運動】

19世紀のヨーロッパは都市化、工業化に襲われ農村は疲弊した。これに抵抗してスウェーデンで民衆の歌や踊りを蒐集、保存、研究する運動がおこり1890年スウェーデン、フォークダンス協会が発足した。続いて1896年にノルウェー協会、1902年にデンマーク協会が誕生し相互に交流し運動をすすめた。この影響を受けてイギリス民族舞踊民謡協会が1911年設立され関係者はイギリス系移民が保存するうたとおどりを求めて新大陸アメリカ各地を旅行し調査研究をすすめた。1928年国際連盟の学芸協力国際委員会が提唱してプラハで国際民族芸術会議が開催され31か国から250人の各国代表が1週間にわたり展示や研究発表を行っている。日本は日本民俗芸術の会から代表を1名派遣民謡のレコードと盆踊りのスライドを紹介しイギリスの代表団と興味深い交流をしている。当時欧米中心の学問の世界に対等に参加発言した日本の民俗芸術関係者の情熱と高い研究水準がうかがえる。その後この分野ではフォークソングが国際的に大きな運動として広まっている反面フォークダンスは低調のようにみえる。

第2次世界大戦後アメリカ主導のレクリエーション運動と併行してフォークダンス運動が世界にむかってスタートした。アメリカで最も運動が盛んなのは西海岸カリフォルニア地方で州協会が1942年に発足、指導者養成、大会、出版、調査研究等を行っているが全アメリカを統轄する団体は存

在しない。アメリカのスクエアダンス運動は国内で盛んであるのみならず世界の20余か国で踊られている。またエジバラに本拠地をおくロイヤル、スコティシ、カントリーダンス協会がすすめるダンスも20か国をこえる愛好者を擁して会員も増加している。こんごこのように国境をこえて各民族の民族性豊かなダンスが世界各地で多様に踊られる可能性は高い。

【まとめ】

国際民族芸術連盟 (IOFA) は1989年5年ギリシアのラリサで第3回世界会議を開催、テーマは“フォークダンスによる教育”となっている。検討された項目は

1. 初等、中等、高等教育で指導対象となるフォークダンス
2. 指導するフォークダンスの真実性
3. 現代文明社会における伝統的ダンスの位置

1989年7月ホンコンで第4回アジア太平洋ダンス国際会議が開かれ、現代的芸術ダンスと伝統的な民族ダンスがテーマであった。アジア太平洋地区では欧米ダンス文化とは異質でより人間の本質にかかわる形で生き続けている例が少なくない、“その保存と変化”について熱心に討議された。

フォークダンスは日本の国際化、生涯教育の面から可能性は大きい。社会教育、レクリエーションの分野と併行して学校教育においても充実する必要がある。そのためには次の3項について明確に共通な理解をもつことが重要であろう。

1. 現在踊られているフォークダンスの分類
2. ダンスの歴史と教育にはたした役割
3. 国際的フォークダンス運動の理念と実践

日本人は適度な芸術性、強い好奇心、器用な身体活動、集団主義等国際的フォークダンス運動に適していると考えられる。

参考文献

- History of the Dance by R. Kraus 1969
Dance and Society by R. Frances 1969
International Folk Dancing U.S.A. by B. Cassy 1981
Dance Education in U.K. by P. Brinson 1980
民俗芸術、民俗芸術の会、昭和3～4年

付) 在日外国公館文化担当官宛フォークダンスに関するアンケート調査の一部 (S50～H2の間、3回、72か国から回答)

1. FD人口はアジア、アフリカ、中南米が多く、欧米圏は少ない
2. 自国FDを小中校で教えているのはアジアと中南米が7割、欧米圏は5割
3. 外国FDを小中校で教えているのは欧米で3割、他はきわめて少ない
4. 担当官は自国のFDの知識をもっている